第５３回黒部川土砂管理協議会

●開催要件

〇開催日時　令和５年２月１３日（月）　１３：３０～１５：２０

〇会　　場　黒部市国際文化センター　コラーレ　マルチホール

〇出 席 者

・武隈 義一　黒部市長
・笹島 春人　入善町長
・山崎 富士夫　朝日町副町長
・中島 章文　富山森林管理署長
・林　誠　富山県生活環境文化部次長
・山下 大樹　富山県農林水産部参事
・金谷 英明　富山県土木部次長
・久米 一郎　関西電力㈱北陸支社長
・安達 孝実　北陸地方整備局河川部長（座長）

事務局　北陸地方整備局河川部
　　関西電力㈱再生可能エネルギー事業本部

●議　事

（１）議　題

報告事項

①第５７回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和４年度土砂変質進行抑制策の実施結果ならびに連携排砂（中止）の経過・環境調査結果等について

②令和４年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座長挨拶

座長

本日は、委員の皆様方には、年度末の大変お忙しい中、当協議会にご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。

また、日頃より国土交通行政、とりわけ河川行政の推進に当たりまして、ご理解、ご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして、まずもって厚く御礼を申し上げる次第でございます。

本協議会につきましては、規約第２条のとおり、黒部川の出し平ダム、宇奈月ダムの円滑な排砂及び適正な黒部川流域の土砂管理等に関し、関係機関との協議調整を図ることを目的として、平成１０年度に発足し、毎年、排砂期間前、期間後の２回、実施しているところでございます。

今回の協議会におきましては、今年度の取組結果と環境調査等の結果をご報告させていただき、ご意見をいただきたいと思っております。

今年度の連携排砂につきましては、連携排砂に至る出洪水が発生しなかったことから、排砂計画に基づきまして、9月１日に土砂変質進行抑制策を実施したところでございます。この抑制策は、連携排砂が始まってから３回目の実施となります。前回は平成２９年度に行われておりますが、今年度のように純粋に雨が降らなくて連携排砂ができなかったというのは今年度が初めてのことでございます。

また後ほど、事務局から今年度の事象を踏まえた今後の検討課題についても報告がなされる予定でございます。

本日は限られた時間ではございますが、委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただけましたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

報告事項

（１）第５７回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和４年度土砂変質進行抑制策の実施結果ならびに連携排砂（中止）の経過・環境調査結果等について

（２）令和４年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座　長

今ほど報告いただきました内容につきまして、質疑に入らせていただきたいと思います。

その前に、事務局からかなりたくさんの説明がございましたので、私からも簡単にアウトラインみたいなものを整理して説明させていただければと思います。

まず、今日の資料の一番最後の【参考】というページをご覧いただければと思います。

今日の流れといたしましては、図の中の６月から８月、下にあるところでございますが、連携排砂の実施、環境調査の実施というところから見始めると一番分かりやすいかなと思います。

ここが、雨の関係で連携排砂が実施されなくて、土砂変質進行抑制策を９月１日に実施したと。各種環境調査はやられているというところから始まりまして、調査結果をまとめて、それで赤の箱のところ、黒部川ダム排砂評価委員会が１月２６日に実施されましたと。この内容が資料－１になっているということだろうと思います。

そして今日、２月１３日については、矢印で「今回」と書かれているところでございます。黒部川土砂管理協議会ということで、実施経過・環境調査結果等について協議調整をさせていただき、これを次年度の計画に、ご意見等々をいただいた上で反映をさせていただき、３月から５月の学識経験者から成る評価委員会、さらには首長さん、関係機関の代表者の方から成る土砂管理協議会、こういったところに持っていくというのが流れだと思っています。

それで、さらに資料－１をご覧いただければと思います。

１月２６日に第５７回黒部川ダム排砂評価委員会が開催され、この評価の中で、土砂変質進行抑制策の実施結果、さらに環境調査結果についてどういう結果が出たか、これを事務局から資料－１の別添－１から２に基づいて、代表事例を基に説明いただいたというところだろうと思います。

また、今後の留意点については、１点書いてございますが、令和４年排砂期間を踏まえた今後の検討課題については、より自然に近い形で連携排砂実施に向けて対応の検討を進

め、関係機関と協議調整を図っていく。なお、土砂変質進行抑制策を実施した場合には、その評価のため、引き続きデータ等の蓄積を行う必要があると。

これについては、資料－１の別添－３の中で、どういう課題があるのかというのを出していただいたと。これについては、すぐにできるものではなく長期的なものがあるかもしれませんが、こういった課題があるんじゃないかということで出していただいたというものだと思います。

また、それとは別個、現時点でどういう取組を事務局がしているのかというのが資料－１の別添－４ということで、いろんな取組が書いてあると。また、情報発信については、案ということで書いてございますが、こういった方向で今後出していきたいということで事務局は考えているといった理解でおりますが、よろしいですか。

また、資料－２については、関係団体からの意見と対応ということで聞いていただいたもの、さらに事務局としてどう考えているのか、そういったものをまとめていただいたということで、大枠のところはそういう形の資料になっていると思います。

それでは、本日の議事ですけど、２つ報告事項がありました。議事次第を見ていただくと書いてあるんですが、この１つ目の（１）第５７回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和４年度土砂変質進行抑制策の実施結果ならびに連携排砂（中止）の経過・環境調査結果等について、ご意見をいただければと思っております。

何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

Ａ委員

この連携排砂は、平成１３年から始まってもう２０年以上になるんですが、この間、いろんな議論が当然のことながらされてきたと思っています。特に今回も、今までなかったような団体からの意見などもあるわけですけれども、これまで２０年間で大きく変わったというものがあったらぜひお知らせいただければと思います。

座　長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

おっしゃるとおりで、連携排砂という形で今年度は２１回目だったわけですが、こちらは、あるときを境に大きく変わったというよりは、大きなスキームはそもそも変わっていないのですが、知見を重ねかつ皆様方との協議を踏まえ、やり方にマイナーチェンジ等あ

る中で、平成２９年にそれまでの知見をガイドラインという形で取りまとめ、それを黒部河川事務所のホームページで公表しているところです。その段階で、ある程度これまでの知見をまとめて１つの考え方としてフィックスしました。

ただ一方、案がついているのは、その後も自然状況等を踏まえたり、皆様方との状況等を踏まえて適宜見直す余地があるということで案をつけているというのがこれまでの流れです。

ですから、ご質問に対して直接的な回答になっていないところもあるのですが、大きくこのときを境にドラスティックに変わったということはございませんで、これまで知見を積み重ねてきて今のやり方になっているという状況です。

座　長

今の事務局の回答は、平成１３年度からやってきて、知見を積み重ねてきて、ガイドラインを出したと。ガイドラインについては、案が入っているのは、これからもどんどん知見を入れて追加できるようにということだろうと思います。

そういったところで進めておりますが、いかがでしょうか。

Ａ委員

２０年間も経過をしますと、この排砂の状況ももちろん変わってきておりますが、地域に暮らしておられる皆さん方の状況も変わってきておるわけなので、それなりの変化がやっぱりあってしかるべきなんだろうと思っています。２０年前にやったことがずっとこれまで続くということではなくて、その都度その都度、状況に合わせた変化の中で、自然に近い形の連携排砂をぜひやっていただきたいと思いますので、これは要望でありますが、よろしくお願いいたします。

座　長

よろしいでしょうか。

それでは、ほかにご意見ございますでしょうか。

どうぞ。

Ｂ委員

先ほどご説明の中で、来年度の排砂量の考え方のところについて、別添－３の資料の３ページだったと思いますが、昨年９月の抑制策後測量されたその基面をゼロにして、そこからたまった分を来年度の排砂量にするというご説明があったんですが、よく分からなかった。この表だけ見ていたら、今年の計画量と、その間、その後また青字でたまった量と、

これはどうなっているのかなというのが、素人的に見るとちょっと不思議な感じがしたので、その辺をもう一度、併せて教えていただければ助かるんですが。

事務局

事務局より回答させていただきます。

ちょうど３ページ目をご覧いただいているところで、令和４年度の目標値は黒字でお示ししております１７万ｍ^{3}の排砂量であったと。それが中止となりまして、そのままダムの中にとどまっている状態でございます。その後、土砂変質進行抑制策を実施いたしまして、土砂変質進行抑制策におきましては、砂が外に出ていくというところは大きな量としてはないということで、その後、測量結果に基づいてさらに１８万ｍ^{3}たまっていることが確認されました。よって、１７万ｍ^{3}足す１８万ｍ^{3}の３５万ｍ^{3}がダムに今とどまっている状態で、まずその状態で、次年度では令和５年度の目標排砂量はどうするかといいますと、ここの１７万ｍ^{3}足す１８万ｍ^{3}は一旦とどめるという基本的な考えでおります。赤が今年度、令和４年９月以降にたまった分を１年間にたまった土砂として次年度排砂していくという考えが基本的な考え方でございます。

ただし、ご説明の中で申し上げたとおり、この赤の量ですとか、出洪水の状態によっては、この１８万ｍ^{3}なりの一部の土砂が移動するということは、想定範囲内の中であり得るということでございます。

事務局

補足いたしますと、これはあくまでガイドライン、マニュアル、これまでのいわゆる目標排砂量の設定ということですので、当然、今後、測量結果を踏まえまして、シミュレーション等で目標排砂量は決定しますので、今疑問を持たれておりますたまった土砂がどうなるのかといった点につきましては、今後、次の排砂評価委員会でも評価いただいた上で、最終的には目標排砂量を設定することになるかと思います。

Ｂ委員

といいますのは、農林水産部ということで、これまでも漁業者の方や農業者の方の立場からこういう協議会にも参加させていただいて、意見も言わせていただいている中で、やはり恐らく、またいずれはこういう来年の計画量はこうですってご説明するときに今の同じような説明をされると思っていて、少なくともこの表だけを見て、何でそうなるのという部分がすぐぴんと分かるわけないなと思ったんです。すべからくいろいろ要望等も、僕、今日この新たな関係団体からの意見と、ちょうど春も出ていたものですからそのときの意

見と比べたりしていたんですけど､団体からは同じような意見が出ているところもあって、これも何でまた同じ意見が出てきたのかなと思うと、もしかしたら団体に対してしっかり説明していない部分もあるのかなと思ったりもしたものですから。やはりこういう排砂を実施するとなれば、当然、そういう整形といいますか、漁業者の方、農業者の方の意見を非常に大事にしていただきたいなと思うと、この来年度の目標排砂はこうしますという説明の際も、なるたけ分かりやすくご説明いただければいいかなということで改めて質問させていただいたところなので、よろしくお願いしたいと思います。

座　長

今のご意見は、分かりやすく説明をすることが大事だということでしょうか。

Ｂ委員

ええ、そうです。

座　長

事務局、どうでしょう。

事務局

その点は、前回の意見聴取を聞いた際にも同じように、非常に分かりにくいというお話はいただいておりましたので、再度計画の際には分かりやすく説明できるように、絵とか使いながら、また考え方を説明したいと考えております。

座　長

ということで、これからまたさらに分かりやすく見せ方を工夫するということで、やっていただこうと思っています。

Ｃ委員

今のご議論なんですけれども、分かりやすいか分かりやすくないかというので、赤の部分だけというところなんですけど、赤でたまった部分だけというのは、なぜにという説明が聞いていてもよく分からん。そうしますということは分かったんですけど、なぜに赤の部分だけで、青とか黒の部分はやらないのかというところのご説明がなかったように感じたので、そもそもなぜにというところをちゃんと答えていただければありがたいなと聞いていて思いました。どうすべき、こうすべきというのはないんですけれども、何でそういう考えになっているかというのが、聞いていて分からなかったです。

事務局

これはあくまでマニュアル上の話なので、排砂を実施していればの場合は、排砂をする

ことによってその後たまったものを排出しますということで、赤色の部分が通常の考え方です。

今回については、今、排砂ができなかったので３５万m^3残っていましたということなので、実際、赤色プラスその残っていた部分になる可能性というのは十分あると思っています。それについては、先ほど申しました①、②の土砂の測量した結果及びシミュレーションというのを考えまして、最終的な排出される目標排砂量は決められることになろうかと思います。あくまでこれはマニュアルにおける毎年の目標排砂量の設定の考え方ということになっております。

Ｃ委員

マニュアルにのっとってというのは、聞いていてそういうことなんだなと思いましたけれども、それでは、なぜそのマニュアルがそういう考えになっているのかということまでご説明いただいたほうが、皆さん聞いているほうは納得すると思うんですけど。そのマニュアルの考えが今なぜにというのがないとかあるとかだったら、またそれも教えていただければと思いますけど。

事務局

今回ご説明いたしましたように、いわゆる純粋に排砂ができなかったという事象が今年初めてと。雨で少なくてできなかったというのが今年初めてということでして、今回がこれまでになかったレアケースということになっております。

それゆえ、先ほど一番最初に別添－３でご説明しましたように、我々としては問題意識を持ちまして、今後、こういったケースも踏まえて、マニュアルも変えていかなきゃならないと考えているというのが今現在の立場になっております。

それゆえ、今回、赤色というのはあくまでこれまでのケースでの目標設定量になっておりまして、今後につきましては、測量の①、②をした結果、目標排砂量を設定させていただきたいと考えております。

答えになっておりますでしょうか。

Ｃ委員

最初の説明ではこの赤だけですみたいなことを割と強く前面的に押し出されていたような気がしたんですけれども、もしマニュアルの見直しもあり得るんだったら、ここも見直しもあり得るとかというふうにされたらいかがでしょうか。今のだとこの赤の部分ですというのを前面に押し出されているような気がします。

それから、やっぱりマニュアルでなぜに赤の部分だけなっているのかという、なぜにというところもやっぱりご説明がないような気がしましたけど。

事務局

赤色のところは、もう毎年排砂が実施されているというのが前提でしたので、この赤色だけがいわゆる目標排砂量になっているというのが、なぜそうなっているかになります。

一方で、先ほどご指摘がありましたように、赤色が強調されているということだったんですが、意図としましては、検討課題ということで３ページのところで、今回、赤色のところと言いながらも１８万m^3も変動の範囲で設定することがあるかもしれませんって言っていますのが、先ほど私が説明いたしましたように、赤色だけではなくて青色ないし黒色というところを目標排砂量の想定範囲内も含めて設定させていただきますという説明でした。説明の仕方としてはちょっと回りくどいということで分かりにくかったかもしれないんですが、我々としては、必ずしもこの赤だけという意図ではなかったと。すみません、我々の説明が悪かったと思いますが、そういう意図でありました。

Ｃ委員

何度も繰り返しすみません。もしそういうことであれば、これまでのマニュアルについては前年度まで排砂することが全て前提となっていたので、その考えからすると赤の部分でしかないんですけど、今回想定されていた以外の事象が発生したので、過去に遡ってどうするか検討しますみたいなことまで書かれたら……、書いてありますか。

事務局

すみません、そこまで書いておりませんので、ご指摘いただいた部分は我々の配慮が足りなかったと考えておりますので、申し訳ございません。

Ｃ委員

配慮とかどうとかじゃなくて、事実関係としてそう書かれたほうがいいのではないかなと思いました。

事前に事務局との会議で聞いたときに、ここは赤だけですって、私は市役所の職員から聞いたんですけれども、じゃ、何で遡らないんだろう、そこについてどうするんだろうというところは、聞いたらうーんという感じでしたので、やっぱりみんなそこまで考えていらっしゃるんだったらそこまで書いた上で、事実を明らかにした上で、皆さんのご了解を得たほうがいいのかなと思いまして。

事務局

ご指摘ありがとうございます。その点につきましては、今後、事実も含めて十分に考えたいと思っております。

事務局

補足をさせていただきます。

今のご指摘に関しては分かりました。

事象として１つ補足でご説明いたしますと、例年ですと連携排砂が終わった後、測量を行うことで目標排砂量を決定してきたところです。今回でいうと、連携排砂がなかったので、それに相当する土砂変質進行抑制策を９月１日、２日で行い、その後、本来だったら連携排砂が終わった直後にする測量をしたわけです。まず、その測量のタイミングと、通常ですと連携排砂が終わった後に、堆積している土砂の表面がフレッシュな、今回の抑制策と同じ効果を持つような空気等を十分含んだ水面にさらされることで、それ以降は堆積したままとなり、基本的にはそこからたまった分を出しますという、事象としてそういう考え方をこれまでもしております。ですから、その起点としましては、今回連携排砂がなかったことを踏まえまして、この抑制策直後、言ってみればこの青の１８万m^3が堆積した段階からを起点としてこの赤字の部分をベースとして考えますというふうに考えています。ですから、このベース案の考え方としては、基本的に表面上を１回リフレッシュしたものなので、それ以降であれば、基本はこれまでの排砂と同様に、堆積することも技術的には問題ないのではなかろうかと。

あとは、堆積土砂が、ヘドロ化しないというのは環境調査等で基準等を確認したところなんですが、それが翌年度の排砂でこの後１年間でたまるものと同じように排出できるかというと、これまでもそこはどうしても想定変動範囲ということで想定外に出てしまったり、逆に出にくかったりということがあるので、そもそもなかなか目標量として設定しづらい性質になっているんじゃなかろうかということもあります。ただ、すみません、その辺も資料には書いておりませんので、もうちょっと丁寧にご説明すべきだったかなということはございます。

ですから、事象としてはそういう事象でございます。

Ｃ委員

分かりました。

座　長

今のご指摘については、多分、今補足として説明されたように、フレッシュな部分を起

点としてやっているので、その赤の部分と。また、いろんな説明の方法でより分かりやすくというところについては、また今後対応いただく、そんな感じになろうかと思いますが、事務局、よろしいでしょうか。

事務局

そうですね、最終的には、そういったシミュレーションもそうですし、最後の測量も踏まえて、きっちり考えた上で設定したいと思いますので、その際にはよろしくお願いします。

座　長

それでは、次のご質問に移らせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

Ａ委員

先ほどと若干重複する部分があろうかと思いますけれども、例えば、今の各団体からの中に、もっと回数を増やすべきではないかとか、あるいは今の状況も変わってきておるということ、特に農業関係なんかですと、この黒部川扇状地は、かつては米一辺倒の地域でしたが、今はこれだけ転作率も４０％を超えるような状況になってきて、米だけに水が必要な時期だけではなくて、それ以外にも必要な時期がたくさん出てきておる状況であります。そういったこともありますし、また、これまでに雨の降り方も変わってきておるという状況、こういったものを踏まえて、やはり関係団体の皆さん方の意見というのは本当に切実な意見ではないかなと思っておりますので、しっかりと情報を聞いて、また納得できる回答をしてあげていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

座　長

それでは、事務局、いかがでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

こちらの関係団体の意見ということで、今回こういう形で書面で出てきた部分や、あと事前に個別にご説明したり、今、こういうことを考えていますということで、サウンディングと言いますか、正式な形ではないものも含めまして、ご意見等を並行して伺ったりということをしているところです。

それで、代表的な時期の話とかも一部の団体では５月はやめてもらいたいのように出ているところもありますが、いろいろな立場でいろいろな方の意見があるので、当然のことながら、やっぱり聞く、変えるとなりますと、皆さんの共通の認識かつ共通の合意が得ら

れたところでないと変えられないところがございますので、逆に、いついつまでに決めるとか、なかなかその時期を決められないところはあるんですが、今後丁寧に皆さんのご意見かつ社会情勢、天候状況等を踏まえながら、慎重に対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

Ａ委員

今の状況ですと、６月１日から８月３１日までというがちがちの状況の中でやっておられるんですね。前回もちょっと言わせていただいたんですが、若干の融通を利かせていただくような交渉事とか、そういったことも踏まえてやるべきではないのかなと思っています。

あと１点、今回の団体からの意見には書いていないんですが、海底掘削といいましょうか、海底耕起ですね、こういったものをやっていただけないかという話も漁業者のほうからはあるんですが、皆さん方にはそういった意見というのは伝わってきているのでしょうか、いないのでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。すみません、一般論としては記憶していないんですが、正式な形では伺っていないところでございまして、逆に、海でいうと今回に関してもブルーカーボンのお話だとか、こういう形で書面で出てきておりますが、そこは仮にもし正式にご意見としてあれば、当然、皆さんと共有させていただきますし、あとは、いかんせん海の話になりますと必ずしも黒部河川事務所の担当ではないところもございますので、そこにつきましてはまた内容を見てから検討させていただきたいと思います。

以上です。

Ａ委員

町のほうへそういう話が来ますので、なかなか我々としても対応しにくいような状況でもありますが、またご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

座　長

どうもありがとうございます。

今、（１）だけではなくて（２）のほうもご意見を伺うような形になりましたので、（１）、（２）含めて、ご意見等々ありましたらよろしくお願いいたします。

Ｄ委員

よろしいですか。

座　長

どうぞ。

Ｄ委員

ちょっと教えていただきたいんですが、関係団体からの意見ということで、その前に、今、今年で２１回目だとお聞きしたんですが、１回確認したいのは、今回２１回目で初めてこの連携排砂中止という理解でよろしいでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

厳密に言うと、これも説明が若干不足していたところがあるのですが、２１年目にして、天候が理由で一度も連携排砂ができなかったというのは、この令和４年度が初めてです。１回もできなかったということでいうと平成２９年も、このときは今回みたいに天候が原因ではなくて別の要素だったんですが、１回も排砂ができなかったというのは、連携排砂が始まってからはそのときもありましたので２回目です。あとは、平成１２年はまだ宇奈月ダムができていなかったので、厳密に言うと連携排砂ではなくて単独排砂だったんですが、そのときもできなかったんですが、そのときは時期がまた冬でしたので、ちょっと条件が違っていたと。そういう意味で、排砂が１回もできなかったというのは合計３回で、天候が理由でできなかったのはこの令和４年のみです。

中止という意味でいいますと、令和２年にも中止はございまして、そういう意味でいうと、個別で見れば、今回は中止もありましたし、１回も排砂ができませんでしたという初めての年ですが、中止だけでいえば、あった年でいうと、令和２年もありました。１回も排砂ができないという年でいうと、平成２９年がありました。ただ、雨が原因ではありません。

以上です。

Ｄ委員

分かりました。ただ、この答えで、自然流下に至らず途中で中止した場合は「連携排砂（中止）」と定義すると書いてありますけれども、この関係団体からのご意見ももっともだなと思うのは、中止という表記の仕方は今回が初めてか分かりませんけれども、中断とかいろいろあると思うんです。この定義が、いろんな意味での誤解なり受け止め方のあれによってちょっと反発もあるのかなという気がしたものですから、そのあたり、この後もその定義づけ、デフィニションはこういうふうになっているんだと、これからも変わる予定

はないんですかね。

事務局

ご質問ありがとうございます。

定義というとどうしても整理上の話になってしまうところはあるんですが、排砂というとどうしても意図的に目標としていた土砂を掃流力をもって排出するということで、自然流下が始まった段階をもって私たちが目標としていた排砂を行いましたというふうに考えているところがありまして、一方、そこに至る前ですと、排砂ゲートを開けたんですけれども、我々は排砂というオペレーションを行っていないものからどうしても排砂中止という、すみません、今定義の話をさせていただいておりますが、それが今の定義です。

それを見直す場合に、すみません、そこは今、速やかに答えを持っていないところがありまして、問題意識、そういうご指摘があるということは理解しました。

以上です。

Ｄ委員

分かりました。こういった意見があると、ここにちゃんと文字としてあるものですから、そのあたりはまた研究していただければと思います。

あと１点、合口用水は断水の影響があるということで、用水も止まるといった中で、農業にも関係あるんですけれども、例えばうちの場合ですと、防火上の対策も必要になってくるものですから、先ほどの考え方の対応の中では、その期間なり、そういった長期化しないような対策も検討していくということでございましたので、その余地があるのか分かりませんけれども、そのあたりはまたよろしくお願いしたいと思っています。

座　長

よろしいでしょうか。ほか。よろしくお願いします。

Ｃ委員

今から言うことは私の意見ではなく、議会の中でこういう場で働きかけてくれという意見が出されましたので、これからお伝えさせていただきます。

先ほどもちょっと出ておりましたけれども、連携排砂の期間を６月から８月の間の１回とかに限るのではなくて、一定の出水のたびに排砂、通砂等をするようにしたらいかがかという意見もあります。

それからもう一つなんですが、いろいろ難しいとはお聞きしておりますが、雨の量が足りなければ、上流のダムから放流いただいて水の量を増やして、それで流したらいいんじ

ゃないかという意見も出ておりますので、これをご紹介と同時に、そういう柔軟なやり方もご検討いただければなということでお伝えさせていただきます。

事務局

まず、排砂、通砂の期間の件につきましては、先ほど我々としては検討しているということで、関係団体の皆様方と相談しながらしなければなりませんので、これからヒアリングをしながら進めていきたいというのがまず１つです。

２つ目のダムの件ですけれども、こちらはやはり雨のときの出水のときに、たまたま水が少なくてということではあるものの、やはり人工洪水ということもありますので、我々としては、操作規程と言われています認められた範囲内での操作ということになっておりまして、そこは今現状ではちょっと難しいというのが正直な回答になっております。

以上です。

座　長

そのほかご意見いかがでしょうか。

Ｅ委員

今年度、今のところ洪水が発生しなかったので未実施だったということで、今後の課題の検討ということで別添－３という資料をまとめていただいていて、より自然に近い形で連携排砂の実現を目指して今後考えられていくということなんだなということで、非常に前向きな姿勢を持っていらっしゃるんだなと受け止めておりました。

具体的に幾つか、こんなことを考えてみますわということが中で書いてありまして、それはそれでなかなかハードルも高いだろうなと思いますし、今ほどご提案ありました上から水を流せばという画期的な話もありましたけれども、できなかったという事実はそれなりに大きなイメージがあるんだろうと思っておりますし、これが１回ならそうなんですけれども、仮に今後続くようなことがあれば、それはそれでやっぱりいろんなインパクトも、たまるだけじゃなくて下流では掘れるということもありましょうし、海域でもいろんな影響があるかもしれません。いずれにせよ、自然に近い形を目指していくというのが多分、皆さんの共通したところなんだろうと思いますし、我々もそうだろうと思っております。

そんな中で、１つでも前を向いてご提案されて、チャレンジしていただけるような方向で調整が図られたらいいんじゃないかなと思っておりますので、ぜひご検討をお願いしたいと思っております。

私からは意見であります。

座　長

どうぞ。

事務局

ご意見ありがとうございます。

今ご指摘のとおりでして、補足で説明いたしますと、まず、基本的コンセプトとしては、本来、ダムがなくても上流からの土砂は下流に出ることになっておりますので、より自然に近い土砂の流れを目指しています。

今回、別添－３の１枚目の頭書きの課題を整理・対応（案）検討という、この真ん中の四角の箱で囲ってある、新たな気づきを踏まえた運用の検討という中にポツが３つあるんですが、基本コンセプトとしましては、連携排砂未実施等による目標排砂量の設定について、これは先ほどのご指摘を踏まえたこれまでなかった事象ですので、マニュアルどおりでいいのかどうかといったような、まさに問題意識としては、これまで起きていなかったことに対する設定方法について。

次に、雨の降り方の変化を踏まえた運用の検討についてということで、令和４年はできなかったという事実に対し、近年の気候変動が背景にあるんですが、実はこれも二、三年するとまた気候変動の傾向が変わったりする可能性もゼロではないので、今検討していることがひょっとすると検討内容を変えなきゃいけないかもしれないとか。

３番目として、短期集中型降雨に対する運用の検討についてということで、今回も私たちのシミュレーション上では最後まで排砂できるんじゃないだろうかと思って始めたところはあったんですが、雨が止まってかつ流入量も思ったほど伸びなかったということもあって中止せざるを得なかったということなので、そういったものでも始めたものはなるべく最後までできるようにしたいということで、短期集中型降雨に対しても運用を考えていかなきゃいけないと。

そのときに想定される検討内容が、先ほどご紹介したような、令和４年度を踏まえるとこういうことをまず検討すべきではなかろうかという、言ってみれば例示みたいなところもありますので、今のご指摘と私たちの問題意識の根幹の部分は、おっしゃるとおりで、やっぱりこれまで２１年間やってきた中で積み重ねてきた知見を踏まえて、かつ近年の状況を踏まえて、見直すべきものについては見直していきたいという思いから出ている事例ですので、そこはご承知おきいただければと思います。

以上です。

座　長

よろしいでしょうか。

今の別添－３で、今年度は通常の年とは違う形だったので、気づきが新たに出たというところで、皆さんにお示しされているというところだと思います。

ほかございますでしょうか。

Ａ委員

要望なんですが、この連携排砂の目的をしっかり捉えた上で行っていただきたいとは思うんですけれども、やはり利水、治水という観点、あるいは洪水調整という観点からしていくと、ダムの中に土砂がたまっておってはその効果が出ないということはもう事実であります。したがって、健全なダム管理をしていくということを大前提に、やはり今後の、例えば実施の基準であったり中止の基準であったりいろんな基準をお持ちですが、そういったことも踏まえた見直しをぜひ検討していただきたいという要望でございます。よろしくお願いします。

座　長

よろしいでしょうか。

ほかいかがでしょうか。まだ時間はございますので、委員の皆様のご意見等々ありましたらお伝えいただければと思っています。よろしいでしょうか。

どうぞ。

Ｂ委員

せっかくなので一言だけ。

これは意見なんですけど、やはり連携排砂の在り方をどうしていくかというのはもちろん一番大事なのだと思うんですが、一方で、僕は一番最後の別添－４、より自然に近い排砂方法の工夫とともに実施する河川・海岸・流域における取組、こういったものはなおさらその地元の方、事業者の方に寄り添った取組だと思うので、ぜひ継続してお願いしたいなというのと、農林水産部は水産研究所を抱えております。特に海面におけるいろんな取組については、当然、協力できるものはたくさんございますので、また引き続き一緒に協力してやらせていただければなと思っておりますので、よろしくお願いします。

座　長

多分、この別添－４については、別添－３までとは違って、今までやっていることをしっかりと委員の皆様、さらには他の方々に知っていただくということで作られているとこ

ろがあると思います。なかなかぱっと見てやっぱり分からないところがある中で、しっかりと多くの方々に分かっていただくというのは非常に大事だろうと思いますし、特に今回、１５ページから１７ページについては、案という形で書いていたりするんですけど、やっぱりこういうものを多くの方々に見ていただく、そういった取組をしていただければと考えておりますが、事務局、どうでしょうか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

連携排砂を長くやっていることもあり、連携排砂をやっているなというのは結構地元の方も認識はしていただいているところなんですが、では、どういう効果があるんですかというときに、要は、環境面に対してよいことだとか、実際にその効果の中でも、特に周辺住民の方々にとってもプラスになることだとか、そういったことが直接なことであったり副次的なことであったりということで、いわゆる評価指標としてのＫＰＩと言うとちょっと言い過ぎかもしれないですけれども、連携排砂の正の効果についても何か出せないかなということで、連携排砂を実施するとこんな良い面もあるんですよということをお伝えしたく、今いろいろと事務局で考えているところでございます。そのときに、黒部川河口部でいわゆる土砂を排出することによって、海岸の侵食が若干抑制されたりだとか、あとは、どちらかというと土砂が河川内で幅広く行き渡ることによって、土砂によって濁る部分もあるんですが、土砂が満遍なく広範に広がることによるプラスの部分もないかとか、そういったことで検討しているところでございまして、まだ案つきの検討ではあるんですが、こういった良い面があるんですというものがあれば、そこは積極的にこれからも皆様方にお知らせしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

座　長

今回示していただいたのは例の一つということで、またこういった形で、いろんな形で情報発信を事務局からしていただくことは大切な取組だと思いますので、引き続きお願いできればと思います。

それでは、ほかいかがでしょうか。

Ｃ委員

先ほどＡ委員がおっしゃったことと全く同じなんですが、この関係団体とか住民の皆さんの意見をよく聞いて進めていただきたい、それを再度申し上げさせていただきます。よろしくお願いします。

座　長

関係の方々のご意見をしっかりとこれまでどおり、これまで以上に聞いていただきたいというご要望だと思いますので、事務局、ぜひこれからも引き続きよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見は以上でよろしいですか。

〔各委員うなずく〕

座　長

それでは、議題についてのまとめに入らせていただければと思います。

本日、別添－３、例えば目標設定量の考え方についてご意見が出たり、さらに資料－２、関係団体とのお話について、今後とも丁寧に対応いただきたい等々といったご意見が出されたりしております。これらにつきましては、今回出されたご意見、さらに先ほど紹介しました１月２６日に開催されました第５７回の黒部川ダム排砂評価委員会での評価、ご意見を踏まえて、事務局におきまして令和５年度の連携排砂及び環境調査計画の案をぜひ作成していただいて、次回の協議会で提示をしていただくということをお願いできればと思います。すなわち、先ほど【参考】という資料で、次回の協議会で提示していただければということをお願いしたいと思います。また今後、検討、さらに回答したりする必要がある項目等々については、次回の協議会でご回答いただく、もしくは個別に回答、対応できるものについては、事前に事務局においてご対応をお願いできればと思っております。

以上で本日の議事を終了いたします。ご協力ありがとうございます。

それでは、司会のほうに進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

４．閉　　会

司　会

長時間にわたりましてご審議をいただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第５３回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。